

経営戦略とCSR

東レグループの持続的発展を実現するためには、事業活動のすべての側面でCSRを推進することが不可欠であり、「事業拡大とCSRは車の両輪」と考えています。経営戦略とCSRの連動を通じ、社会・ステークホルダーにとって高い存在意義をもつ企業集団を目指します。

東レグループは、2002年から10年先を見据えた長期経営ビジョンと3～5年間の中期経営課題を策定し、順次見直しつつ経営改革を推進してきました。2011年4月からは「持続的に収益を拡大する企業グループ」を目指す経営活動の統一指針として長期ビジョン“AP-Growth TORAY 2020”を開始し、2014年4月からは第2ステージとして中期経営課題“プロジェクトAP-G 2016”をスタートしました。

中期経営課題“プロジェクトAP-G 2016”では、「成長分野、

成長国・地域での事業拡大」「競争力の強化」を基軸とし、新たな視点を盛り込んだ8つの基本戦略(①成長分野での事業拡大 ②成長国・地域での事業拡大 ③競争力強化 ④営業力強化 ⑤研究・技術開発戦略、知財戦略 ⑥設備投資戦略 ⑦M&A・アライアンス戦略 ⑧人材戦略)を掲げています。

東レグループは、グローバルな事業展開を進め、リスクを最小化しつつ成長機会を確実に捉えるとともに社会的責任を果たす企業としてCSRを経営の根幹に据えており、長期経営ビジョン“AP-Growth TORAY 2020”の目指す姿にはCSRの3つの重要な要素が含まれています。また、中期経営課題“プロジェクトAP-G 2016”においても、「安全・防災・環境保全」「企業倫理・法令遵守」をはじめとしたCSRの推進は東レグループ全体の最優先課題であることを表明しています。

関西ティーイーケイ(株)のCSR

関西ティーイーケイ(株)のCSRの推進体制

関西ティーイーケイ(株)では、CSRに関する重要課題を審議するために、全社委員会のひとつとして最上位に「倫理委員会」を設置しています。倫理委員会は、3つの全社委員会を横断的に統括しており、組織全体でCSRを推進する体制を構築しています。

図2 経営理念・経営戦略・CSRの一体的推進

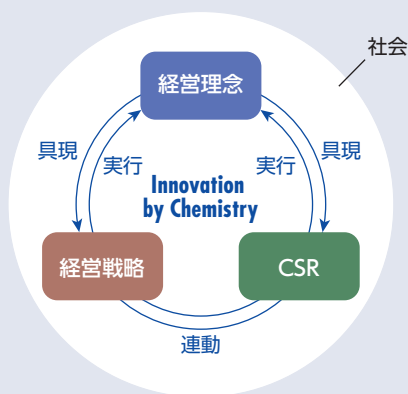
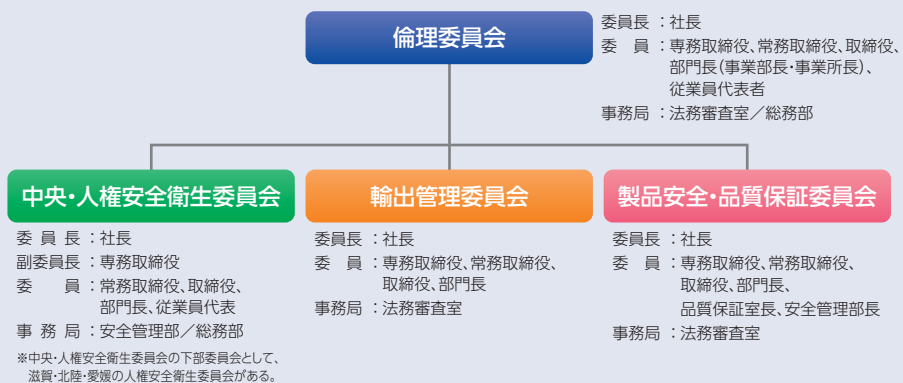


図3 CSR推進体制



専務取締役
管理・調達部門・法務審査室
担当
ながの くにお
長野 邦夫

CSR責任者からの報告

関西ティーイーケイ(株)は、「持続可能な社会の構築への貢献」と「持続的な成長」の両立を目指している東レグループの企業として、「事業拡大とCSRは車の両輪」という考え方のもと、CSRを推進しています。

CSRとは、社会的責任の国際規格ISO26000の定義によれば、組織の活動が社会および環境に及ぼす影響に対する責任 (Responsibility) であり、加えて、東レグループでは、社会および企業が持続的成長をなすた

めに、社員一人ひとりが社会的課題や変化に対応する力 (Response+Ability) を培い、行動することと捉えています。

関西ティーイーケイ(株)は、今後とも社会の発展と保全・調和、人権・コンプライアンスなどの社会的課題の解決に積極的な役割を果たし、すべてのステークホルダーにとって高い存在価値をもつ企業となるために行動していきます。